

2007.10.25 UTCPイスラーム理解講座 「全人間的宗教としてのイスラーム」

鎌田 繁 (東京大学東洋文化研究所)

kamada@ioc.u-tokyo.ac.jp

◎イスラームの特徴

神権性

「イスラーム」の意味：自らを大きな力の前に投げ出すこと。従うこと、帰依すること。神と人間の関係は主人と奴隷 (rabb -'abd)という関係。

包摂性 (人間の活動全体をイスラームによって意味づけること)

イスラーム法 (シャリーア)

○儀礼的規定 (人間と神との関係)

タハーラ (浄め)、サラート (礼拝)、ザカート (救貧税

<喜捨>)、サウム (齋戒<断食>)、ハッジュ (巡礼) など

○社会的規定 (人間と人間との関係)

結婚、離婚、相続、契約、ワクフ (寄進財産)、刑罰など

「行為の5範疇」

ワージブ (義務)

ムスタハップ (推奨)

ムバーフ (無規定)

マクルーフ (嫌悪)

ハラーム (禁止)

究極的権威の地上での不在

イスラームは教説の正統性、異端性を判断するような単一の権威を制度として発展させなかった。

解釈学的宗教

イスラーム 聖典解釈のうえに成り立つ宗教。

神の意志は預言者ムハンマドを通して最終的に伝えられた。その神の言葉の集成がクルアーン。

クルアーンという言葉、それをどう解釈し、何を神の意志とするか、多様なイスラーム理解が生まれる。

クルアーンという言葉がムスリムの生活を規定すると同時に、ムスリムの置かれた状況がクルアーンという言葉の意味を導く。

◎ クルアーン解釈

○ 「クルアーンには文字通りの意味(zāhir)、隠された意味(bāṭin)、制限(hadd)、超越点(maṭla'a)がある。」

○ 明解な語muḥkamāt、曖昧な語mutashābihāt

イムラーン家章 (3:マディーナ啓示 200節)

7. かれこそは、この啓典をあなたに下される方で、その中の（ある）節は明解で (muḥkamāt)、それらは啓典の根幹であり、他（の節）はあいまいである (mutashābihāt)。そこで心の邪な者は、あいまいな部分にとらわれ、（その隠された意味の）内紛を狙い、それに勝手な解釈を加えようとする。だがアッラーの外には、その（真の意味）を知るものはない。それで知識の基礎が堅固な者は言う。「わたしたちはこれ（クルアーン）を信じる。これは凡て主から（賜わったもの）である。」だが思慮ある者の外は、反省しない。

曖昧語の存在する意味：

もしもクルアーンすべてが明解な語だけであったとしたならば、それはただひとつの考え方 (madhhab) にしか対応しなくなってしまう。そしてそのひとつの考え方以外のすべてのものははっきりと無効にしてしまうだろう。これはその他のすべての考え方のもち主に、受け入れ思索し採用することを嫌悪させるようなものである。[クルアーンが]明解な語と曖昧な語とを含んでいるので、どのような考え方のもち主も、そのなかに彼の考え方を支持し彼の議論を助けるものを探そうと努力するのである。かくてさまざまな考え方のもち主たちはみな[クルアーン]について思索し、どの考え方のもち主も[クルアーン]について思いをこらすのである。これを徹底的に進めると、明解な語は曖昧な語の意味を解明するだろう。このようなやり方によって思いつきの議論をする者 (mubṭil) はその誤りから救われ真理に到達するであろう。

出典：al-Suyūṭī, Itqān fī 'ulūm al-Qur'ān, vol.3,p.32

預言者ムハンマド d.632

スューティー d.1505

モッラー・サドラー d.1640

クルアーン

59章2節「あなたがた見る目をもつ者よ、訓戒とするがよいfa-'tabirū」（考えよ、の意）

7章185節「彼らは天と地の大権について観察し、また神が創られたすべての事物について考察しないのか。a-wa-lam yanẓurū」

13章15節「天と地上で凡てのものは、好むと好まないとに拘らず、またかれらの影も、朝夕、アッラーにサジダする。wa-li'llāh yasjudu」（服従する、の意）